

[ペンタゾン液剤]

住化
バサグラン® 液 剤
(ナトリウム塩)

農林水産省登録 第 1 6 1 2 4 号
性 状：赤色澄明水溶性液体
毒 性：普通物
危 険 物：—
有効年限：5 年
包 装：500 ml×20 本

有効成分：ペンタゾンナトリウム塩(ペンタゾン)……40.0%

除草剤分類 6

バサグランはBASF社の登録商標



農薬ガイドの適用表内(＊)および各項目については、i-農力サイトの「製品情報」や「農薬ガイドを見る」から、「農薬ガイドの見方」をご参照ください。
本剤の最新情報：こちらの2次元バーコードを読み取るとi-農力サイトに掲載されている本剤の最新情報がご覧になれます。

[適用と使用法]

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		総使用回数*	使用方法		
			薬量	希釈水量				
たまねぎ	一年生雑草 (イネ科を除く)	春播栽培の移植後 6月上旬まで 但し、30日前	60～ 120 ml	70～ 100 ℓ	1回	雑草茎 葉散布 又は 全面散布		
		秋播栽培の移植後 生葉4葉期まで 但し、30日前						
いんげんまめ		初生葉展開期～本 葉抽出始期	50～ 70 ml					
えんどうまめ		3～6葉期 但し、70日前	100～ 200 ml					
実えんどう さやえんどう		3～6葉期 但し、40日前						
らっきょう		出芽後 但し、60日前						
とうもろこし 飼料用 とうもろこし		生育期 但し、50日前	100～ 150 ml					
ソルガム		生育期 但し、30日前						
麦類 (小麦を除く)		生育期 但し、90日前	100～ 200 ml					
小麦		生育期 但し、45日前						
はとむぎ			150 ml					
おうぎ		生育期 但し、30日前	200 ml		100 ℓ		2回	
べにばないんげん		生育期 但し、45日前	100～ 200 ml		70～ 100 ℓ		1回	畦間雑草茎葉 散布
せり		親株養成期 植付45～ 60日後まで	200 ml		100 ℓ			雑草茎 葉散布 又は 全面散布

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当たり使用量		総使用回数*	使用方法
			薬量	希釈水量		
移水	植稲 一年生雑草 (イネ科を除く) マツバイ ホタルイ ウリカワ オモダカ ミズガヤツリ ヘラオモダカ クログワイ コウキヤガラ エゾノサヤヌカグサ シズイ クサネム	移植後 15～55 日 但し 50 日前	500～700 ml	70～100 ℓ	2 回	落水散布 又はごく 浅く湛水 して散布
直水	播稲 一年生雑草 (イネ科を除く) マツバイ ホタルイ ウリカワ オモダカ ミズガヤツリ ヘラオモダカ クログワイ	は種後 35～50 日 但し 50 日前				

 効果・薬害等の注意

●主要雑草に対する散布適期幅

らっきょう	雑草 3～6 葉期	麦類（小麦を除く）	雑草 3～6 葉期
えんどうまめ	雑草 3～6 葉期	小麦	雑草 3～6 葉期
実えんどう	雑草 3～6 葉期	せり	雑草 3～6 葉期
さやえんどう	雑草 3～6 葉期	おうぎ	雑草 3～6 葉期
とうもろこし	雑草 3～6 葉期	ぺにばないんげん	雑草の生育初期～6 葉期
飼料用とうもろこし	雑草 3～6 葉期	たまねぎ	雑草の 3～4 葉期
ソルガム	雑草 3～6 葉期	いんげんまめ	雑草の 2～3 葉期

- 本剤は一年生広葉雑草に有効であるが、作物ごとに使用薬量等が異なるので、時期を失しないように、雑草茎葉にかかるよう均一に散布する。
- イネ科雑草には効果がないので、イネ科雑草の優占圃場での使用はひかえる。また、イネ科雑草が混在する場合はこれらに有効な除草剤との体系で使用する。
 - 散布後、曇天、降雨日が長く続くと効果が劣ることがあるので、晴天時を見はからって散布するのが望ましい。
 - 高温条件下では、薬害が生じやすいので異常高温下での散布はさける。
 - 重複散布は薬害のおそれがあるのでさける。また、周辺作物にかからないように注意する。
 - 本剤の使用にあたっては使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
 - いんげんまめ、せりに使用する場合、本剤は葉枯・褐変症状の薬害を生じやすく、蒸散の盛んな高温乾燥条件下では薬害により減収することがあるので、雑草害が予想される場合に限り使用する。
 - たまねぎに使用する場合、直播栽培及び苗床のたまねぎには、薬害を生じるおそれがあるので使用しない。

- べにばないんげんに使用する場合、薬液が作物に飛散すると葉に褐変症状の薬害を生じるので、作物に飛散しないように注意する。
- せりに使用する場合には、落水状態にして水の出入りをとめ、まきむらのないように均一に散布する。また、散布後7日間は降雨の有無にかかわらず落水しない。
- おうぎに使用する場合、本剤は一時的には葉先の黄化等の薬害を生じることがあるので、特に天候等をよくみきわめてから散布する。
- 水稻に使用する場合には一般的注意事項のほか下記についてとくに注意する。
 - 本剤は水の移動に伴う移行性が大きく、一般に水深の浅いほど効果が安定する。
 - ・使用にあたっては落水状態にして水の出入りをとめ、まきむらのないように均一に散布する。
 - ・水を落とすことができないところでは漏水のない水田に限り、できるだけ浅水状態(雑草が水面上に出る状態)にしてまきむらのないように均一に散布する。
 - ・散布後少なくとも3日間(浅水処理は5日間)はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしない。また、散布後7日間は降雨の有無にかかわらず落水しない。
 - ・処理後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用する。
 - ・深水にすると効果が劣るので注意する。
 - イネ科雑草には効果が劣るので、田植前後の土壌処理除草剤で一年生雑草を防除した後、多年生水田雑草及び一年生広葉雑草の防除を目的として使用する。
 - 本剤は生育期に入った雑草に効果があるが、雑草、特に多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので必ず適期に散布する。
ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカでは発生盛期から増殖中期、オモダカでは発生盛期から増殖初期まで、クログワイでは草丈15～30cm、エゾノサヤヌカグサでは1～4葉期、シズイでは草丈10～30cm、コウキヤガラでは増殖期、クサネムでは本葉展開期が本剤散布の適期である。
 - クログワイ防除は、必要に応じて有効な前処理剤との組み合わせで使用する。
 - 軟弱稲では薬害(接触害)のおそれがあるので使用はさける。
 - 高温など薬害を生じやすい条件での使用は多めの希釈水量を用い、低濃度液をなるべく水稻にかからないように散布する。
 - 砂質土及び漏水のはげしい水田では使用しない(減水深2cm/日以上)。



安全使用上の注意

- 誤飲などのないよう注意する。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。使用後は洗眼する。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。
- 直射日光をさけ、なるべく低温場所に密栓して保管する。